



▲手づくりのビオトープでは生き物観察ができる

自然の中で発見 環境意識を育もう

神美地区には、環境問題を通して子どもの豊かな心を育もうと、子どもと大人と地域が一体となって、環境学習を実践しているグループがあります。今回は、そのグループを支えている一人の女性を紹介します。

立脇 美穂さん (32歳) 豊岡市香住在住



▲立脇さんは現在、3児の母。「子どもたちの笑顔が見たい」と、忙しい主婦業の合間を縫って神美地球防衛隊のサポーター代表を務めている

進め神美地球防衛隊

神美地区の子ども18人と大人9人のメンバーで活動している「神美地球防衛隊」は昨年発足したグループです。

本グループでは、子どもたちに自然体験学習を通して環境問題意識について考えてもらおうと、大人がサポーターにまわり、子どもたちを中心に自由な発想で活動しています。

サポーターの代表を務める立脇美穂さんは、「子どもと大人と地域が一体となって活動しています。そこから新たな信頼関係が生まれています」と昨年の活動の成果を振り返ります。グループでは、環境問題に

「こどもエコクラブ」に関する問合せ
 コウノトリ共生課 環境政策係
 ☎23-1111

関する専門知識がなくても、身近な自然を題材にして環境について学習しようと、環境省が推奨する「こどもエコクラブ」に入会し、活動を行っています。

こどもエコクラブは、子どもなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。子どもたちの興味や関心に基づいて、自然観察・調査やリサイクル活動など、身近な地域の中で環境活動に自由に取り組むことができます。

自然を守りたい

神美地球防衛隊は、1カ月に1回程度、自然体験活動をしています。

今年度は、5月に神美小学校でプールの生き物調査、6

月に穴見川の水質調査、7月には、ダンボールで作った家で自然宿泊体験をしました。また秋には、「生き物を絶滅させないように自然を守りたい」「ごみを減らしたい」という子どもたちの意見をもとに、神美地域のクリーン作戦を行う予定です。

自然の声に 耳を傾ける

立脇さんとともにサポーターとして本グループを支えている平野泰子さん(香住地区)は、「自然に対して関心の少なかった子どもたちが、体験活動を通して、環境のためにできることは何だろうか?と自発的に考えるようになりました」と子どもたちの成長ぶりに驚いています。

身近な自然とのふれあいの中で、自然が語りかける声に耳を傾けられるようになった子どもたち。18人のちびっ子隊員は、さまざまな活動を通して、体験したことを単に知識として覚えるだけでなく、生き物や植物に対する興味を深め、環境問題に疑問を抱き、考えるようになっていきます。

子どもも大人も 一緒に成長

「何かを伝える側に立つにはさまざまな知識が必要です。サポーター活動を通して得たものは、子どもたちより私たち大人の方が多いのかもしれませんが。子どもたちには、物事を幅広い視野で考えられるように成長して欲しいです。子どもたちの歩調に合わせて私たち大人も一緒に成長していきたいと思えます」と立脇さんは今後の目標について語ります。

神美地区では、自然にふれながら環境問題意識と探究心を育む子どもたちに、大きな期待が寄せられています。



▲ダンボールで作った家で自然宿泊体験をする子どもたち